

☆ご自由にお持ちください☆



Wilhelm・Conrad・Röntgen
ヴィルヘルム・コンラート・レントゲン
1895年 X線発見

放射線だより

2023年3月
No.6 (隔月発行)
担当：馬場俊明

from Radiation House

放射線治療前の計画用CTについて

放射線治療の照射範囲や照射方法、適切な体勢、適切な固定具などを決めるために放射線治療前にCTを撮影します。
撮影したCTをもとに、治療計画装置を使ってがんや周囲の正常組織の位置を正確に把握します。
どの部位に、どの角度から、どのくらいの量を照射するか計画します。

正確に治療を行うためには、
治療計画時と治療時が
同じ体勢であること(再現性)
が大切です。



計画用CT



放射線治療



同じ体勢をとるために、皮膚の表面や固定具に直接マジックで印をつけます(マーキング)。
CT室と治療室の天井や壁にはレーザー投光器が置かれており、レーザー光を基準にします。
体のねじれや体の軸がまっすぐか確認するため、体の左右側面、前面にマーキングをします。

マーキングの印はとても大切です。
こすったり、搔いたりして消さないでください。また、
熱いお湯や長時間の入浴はお控えください。
薄くなった場合は必要時、スタッフが書き足しますので
ご自身では書き足さないでください。

なにか分からないこと、心配なことがありましたら、
スタッフにいつでもお尋ねください。(文責：浅賀)



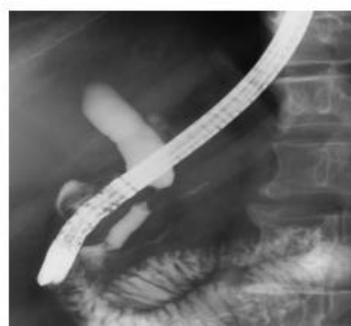
当院では内視鏡やカテーテルを使用して胆嚢や胆管、膵管の検査や治療をするERCPを行っています。

ERCP(endoscopic retrograde cholangiopancreatography)

は日本語で「内視鏡的逆行性胆管膵管造影法」といわれる検査です。

内視鏡を口から入れ、食道、胃を通り、十二指腸まで進め、十二指腸乳頭から膵管や胆管にカテーテルという管を入れて造影剤を注入して胆嚢や胆管、膵管の異常を詳しく調べます。透視装置を使用してカテーテルの位置を確認したり、造影剤を注入した際のX線写真の撮影を行いながら検査をします。

また、治療的な手技として病変部の組織を採取したり、総胆管結石の除去なども行われます。



診療放射線技師は出来る限り少ない被ばくで検査、治療が出来るようにX線の出力を調整し、診断・治療に役立つ画像を提供出来る様に機器の操作・管理を行っています。

ご不明な点がございましたらお気軽にご相談ください。
(文責:濱田)